



大区画での稲刈作業

山形県
西郷北部地区

西郷土地改良区

法人への農地集積で稲作の労働時間は県平均の半分に 効率化による余剰人員を高収益作物の生産へシフト

家族単位の複合経営による 非効率的な営農の改善を目指す

西郷北部地区は、山形県北西部に広がる庄内平野の西側に位置する水田地帯です。

一級河川である大山川の左岸に展開する緩やかな平坦地で、取水環境や地形には恵まれたものの、以前は用排兼用の水路が多く、排水状況も悪いため転作が難しい地域でした。また、砂丘地に隣接しているため、土砂の流入による揚水機場の著しい劣化や、水路の土砂上げにも苦慮していました。

加えて、この地区では小規模な家族経営が主体だったことから、労働コストの問題も発生していました。

多くの農家は、この地区の基幹作物である水稻と大豆を中心に枝豆や花きなども栽培し、さらには砂丘地でメロンやネギを栽培するなど、複合経営を行っていました。家族の労働力だけでこれだけの作業をこなせば労働時間が膨大になり、効率の悪い経営をしいられ、農業所得も低くなります。高齢化が進み、家族だけでは労働力の確保が難しくなるケースも増えました。

そこで、地区全体の労働時間を削減するため、大区画化と農地の集積を目指して、平成21年から30年にか

けて経営体育成基盤整備事業を実施しました。

整備計画では、地区の51%を1.5ha区画に、38%を1ha以上の区画が可能となる2枚1枚均平区画とすること。事業完了後は、1ha以上の区画の合計面積が全体の51%に当たる155haとなりました。さらに、河川頭首工の設置と用水のパイプライン化を実施し、安定した用水の供給が可能となりました。

新設の3法人を含む4つの法人に 約9割の農地を集積

整備事業をきっかけに、農事組合法人の設立と法人への農地の集積も進みました。

もともと西郷北部地区では、集落単位で生産組織が存在し、集落の間では農家のつながりがほとんどありませんでした。そこで、この地区を管轄する西郷土地改良区の役員が取りまとめ役となり、集落ごとに地域の将来について話し合いを何度も重ねました。そして、整備事業実施中の平成27年に、3つの農事組合法人を設立。以前からあった1法人と合わせて、4つの農事組合法人が地区内で稼働することになりました。さらに、この4法人への農地の集積を進め、現在では地区の約9割に当たる263.1haを集積しています。

位置図





▲メロン生産者の皆さん



▲ミニトマト生産者の皆さん



▲砂丘地露地メロン団地

こうして効率化や省力化を進めた結果、余剰労働力を隣接する砂丘地でのメロンや花き類などの高収益作物の生産へシフトすることが可能となりました。特にメロンは多くの労働力を必

十分な労働力を確保できるようになり メロンの品質や収益性も拡大

これにより、担い手の経営面積の拡大が実現。飼料用米の栽培や鉄コーティングによる水稲の直播栽培の導入が可能となり、水稲栽培の低コスト化を図れるようになりました。飼料用米を取り入れた集団転作やブロッコリーテーションによる計画的な作付けもできるようになり、作業の効率化によって労働コストの削減が実現しました。

また、農事組合法人では新たに防除用および直播用のラジコンヘリや大型トラクター、大型コンバインが導入され、大区画化によるスケールメリットを存分に生かした営農が可能に。機械の集中利用によって稼働時間が短縮され、経費も大幅に削減されました。現在では、稲作にかかる労働時間が10a当たり10・4時間となり、全国平均の27・2時間、県平均の22・5時間と比べて、半分以下に短縮しています。



ミニトマト栽培研修会の様子

事業概要

事業主体	山形県		
事業名	経営体育成基盤整備事業		
工期	平成21年～平成30年		
受益面積	302.8ha	受益戸数	255戸
標準区画規模	事業実施前 20～30a → 完了後 50a以上		
1ha以上の区画合計面積	事業実施前 0ha → 完了後 155ha		
主要工事	区画整理工、用水路工、排水路工、道路工、暗渠排水工、揚水機場、頭首工		
関係土地改良区	西郷土地改良区		
関係市町村	鶴岡市、酒田市、三川町		

要とするため、以前は人手を確保できず苦勞する農家が多かったものの、現在は十分な労働力をメロンにかけることができるため、収穫物の品質も向上。また、メロンの栽培後にミニトマトを後作するなど、同じ農地で生産を二回転できるようになり、一区画当たりの収益も拡大しました。

農業所得が向上したことで、地区外から新規就農者が加わるなど若い後継者の確保にもつながっています。今後はICT技術も活用し、より魅力ある地域産業としての“儲かる農業”を実現していきます。